



「超音波検査」について

● 「超音波検査」って何？

人の耳に聞こえる音の周波数（可聴域）は、約 20～20,000Hz といわれています。超音波はこれより大きな周波数（20,000Hz 以上）のことをいい、「超音波検査」では音波の反射と伝わる速さを利用して、人体の内部構造を断層画像として描出します。「エコー検査」とも呼ばれています。



検査は、プローブ（探触子）を体の表面にあて、体の内部を画像として描出し、観察していきます。そのさい、体の表面とプローブを密着させるために、エコー用のゼリー（ゲル）を使います。

長所	短所
<ul style="list-style-type: none"> ・痛みがなく、手軽にできる ・X線検査やCTと違い、放射線を使わないため、被爆の心配がない →小さな子どもや、妊娠中にも安全に検査ができる ・検査する場所を選ばない →エコー装置を移動することで、検査室以外（病室や救急室など）でも検査ができる ・様々な部位を、色々な角度から観察ができる →立体的に病変部を把握することができる ・心臓のように動いている臓器を、リアルタイムで観察できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・骨や空気存在に弱い →骨や空気のその先は観察が難しくなる ・検査する人の経験と知識によって精度が左右される

● どんなところを検査するの？

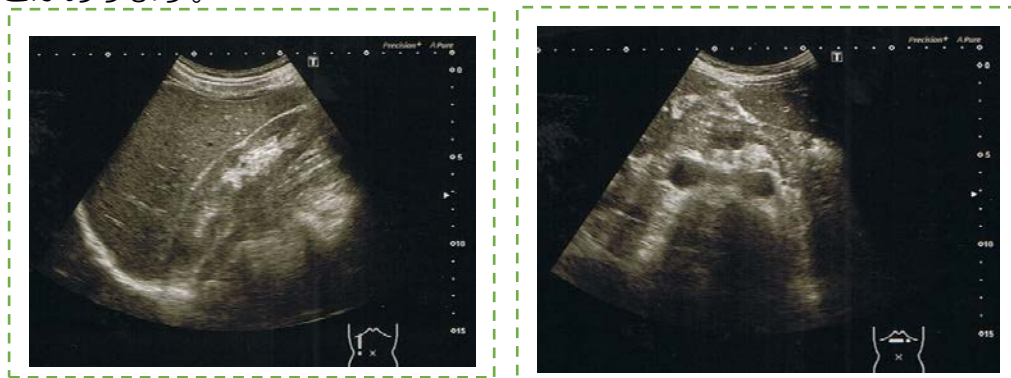
検査の目的に合わせて、腹部や心臓、体表臓器（乳腺や甲状腺、唾液腺など）や、血管（頸動脈や下肢静脈、下肢動脈）などを観察します



● 腹部

主に、肝臓、胆のう、膵臓、腎臓、脾臓を観察します。医師の指示や必要に応じて、大動脈や消化管、膀胱などの観察も行います。

人間ドックなどの健診で行うことも多い検査です。観察部位によっては、食事の影響を受けることもあり、予約検査の場合、飲食の制限をして来院していただくことがあります。



● 心臓

非侵襲的に、心臓の形や動き、血流などを捉えることができることから、色々な心疾患の有無や、治療効果、経過観察などの目的で行われています。

スクリーニング検査として、胸痛や呼吸苦などの胸部症状、心電図異常、心拡大、心雑音などの異常があった時や、非心臓疾患の術前検査の一つとして、心電図やX線検査、肺機能検査などとともに行われることもあります。

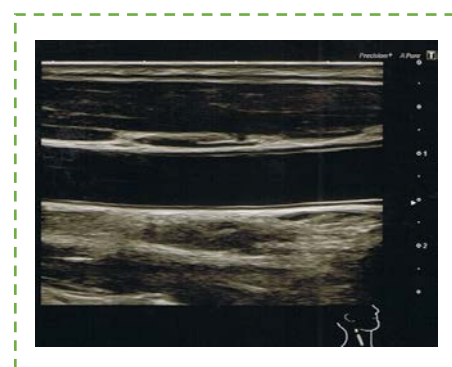


● 乳腺

乳腺組織の観察を行い、腫瘍の有無やその他の異常、炎症による変化などを観察します。乳がん検診で、マンモグラフィとともに行われることもあります。

● 頸動脈

頸動脈は脳に血液を送る大切な血管です。頸動脈エコーは、観察しやすいこともあり、全身の動脈硬化度の評価として広く行われています。頸動脈の血管壁の厚さや、血管の内側の状態（プラークや血管の狭窄・閉塞の有無）を観察します。



● 下肢静脈

検査の目的は大きく2つに分かれます。

- ・ 下肢の静脈に血栓（血の塊）がないかを観察する場合
- ・ 下肢の静脈瘤の有無や、その成因が何かを調べる場合

「四つ葉のクローバー」は当院のホームページ（インターネット）で公開しています。

ご参照ください。

ホームページアドレス <https://www.kosei-hospital.kiryu.gunma.jp/>

